

是非見に来て下さい。 方言第 一 月 三 日 午 前 十 時 一 時 送 入 実 演 展 示 ノ 十 一 日 刊 第



行 産 水 谷 三 立 愛 知 県 高 校 同 窓 会



総会を盛会に!!

同窓会長 小田喜代春

みおすじ発刊にあたりまして一言ご挨拶申し上げます。日本経済は、産業の空洞化現象が生じ、低成長時代が長く続いております。近年一部の業種におきましては、やや景気の回復の兆しが見えて参りました。会員諸兄には、地域・職場にてご活躍のこととお喜び申し上げます。会長就任以来三年目を迎えることができたのも、ひとえに会員の皆様方のご指導・ご鞭撻のおかげとお礼申し上げます。学校も本年度学科改編が行われ、新たな三谷水産高等学校の出発となりはりきっております。一級小型船舶操縦士の養成認定校となり、来年度の漁業科・機関科の卒業生から免許が授与されるようになります。

また、学校の同総会事務局も、総会、会報、会費、名簿の各作業を、各科持ち回りで行うようになり、会員のご意見が少しでも多く反映できるよう組織変更されました。一昨年度の総会より、出席者も一三〇名を越えるようになり、総会、懇親会も大変な盛り上がりとなりました。これも皆様のご協力と感謝申し上げます。昨年より卒業二十五周年目の代表者が総会役員となり、総会の企画・運営にご尽力をお願いすることとなりました。本年度は、昭和四十六年三月の卒業生となります。本年度も十月十三日(日)にホテル竹島で行います。多数の旧職員のご出席も賜り、関係者一同頑張っております。

で、多数のご出席をお待ち申し上げます。最後に会員諸兄の益々のご活躍を祈念申し上げますと共に、



実習船教育に思う

校長 石丸 昭 和

同窓会員の皆様にはますますご健勝でご活躍のこととお喜び申し上げます。また、日頃は母校に対してご支援を賜り感謝申し上げます。さて、水産教育の看板である実習船教育について少しく述べてみたいと思います。一、いよいよ赤道を通過する朝、海魔が甲板に現われる。次に海神ネプチューンが出て、船長としばしの会話の後、船の指揮権を海神に委ねる。初めて赤道を通過する者が呼び出され海水を頭からかけられる。哀れな犠牲者は意地悪な尋問を受ける。船長に大きな鍵を渡す。航海士は汽笛を吹鳴して赤道通過を報告する。やがて余興に移り酒宴が始まる。これは一般的な赤道祭の型である。船と海には多数の慣習・伝説・伝統があり、それ

で、多数のご出席をお待ち申し上げます。最後に会員諸兄の益々のご活躍を祈念申し上げますと共に、

らにロマンを感じて嬉しい。船乗りは、平穏な海にも次の荒天の兆しを見過ごさず、逆に怒涛の非情の海にも必ず静かになることを知っている。苦楽あやなす人生に似て実習船教育は面白い。二、昼夜24時間体制で90日にわたる船員、教官、実習生が一体となり、海と空と魚との対話の中で、互いに強い信頼関係のもと一人前に近づくと、三ヶ月の航海を終えて帰港する頃には、生徒達は一回りも二回りも大きくなっている。たくましく成長した息子に感嘆した親から感謝される。三、教育は生徒の心に届くものでなくてはならない。心に届く教育は生徒が感動する教育であり、その感動は豊かな人格を醸成し、フットワー

クの効いた人生を歩む人間を育てる。赤裸々な人間性のもと、座学と実体験を融合した乗船実習は、人が人として生きて行く力を見につける人間教育の骨頂である。60日間程度の航海で上げている学校もあるが、本校の90日間の実習は正解だと思っている。四、添木教育と言う言葉がある。社会規範を無視し、自己中心的で周りと調和して暮らす術を知らない。若者。気に入らなければ前後のみさかいなく短絡的、即発的行動に走る若者。彼等の指導には手を焼くことが多い。嫌いなことを、辛いこと、苦しいことに耐える力を養うためには、有無を言わせぬ強力な添木を与えて、幹と枝の方向を変えてやる必要がある。洋上という特殊な環境でこそ、添木教育が可能である。最後に、夢を抱き。真にやりがいを持って海に生きる若者を育てる水産教育の一層の活性化と発展を期待するには、水産関係業界の労働条件と労働環境の改善が不可欠であると思う。



定年退職しました

前教頭 谷 誠 剛

私は、昭和四十六年本校に専攻科無線通信科設置のとき採用され、平成七年度末定年まで二十五年勤務しました。その間、舎監、生徒指導、総務、教務を経験しました。

昭和四十年～五十年の三谷水産高校は大変明るく活力のある学校という印象をもってあります。専科五科は遠足、修学旅行、単位認定基準、通知票から生徒指導方針まで異なっており、科ごとのカラーが鮮明で科長を中心とした組織は、学校と言うより寺子屋の集合のようにも思えました。

昭和五十年代も後半に入ると小子化に加えて高校進学率の向上、普通高校の新設、学校群制度の影響で、本校でも志願者の減少、中退者の増加が目立つようになり、学校改革の必要を痛感しました。そ

こでは修学旅行の学年統一実施、成績指導・処理の共通化、単位認定基準の改正、生徒指導の謹慎を家庭から原則登校指導に変更などに微力を尽くしました。

また、今では本校にも女子生徒が普通に見られるようになりましたが、セールスマンよろしく女子制服の着せ替え人形を作って中学校の進路説明会を回ってPRしたものです。

これからの社会は、地球にやさしいことが求められています。水産微生物が私たちの食品医薬、環境改善に大きな可能性を秘めていること、育てる漁業、そこで扱われる情報の利用、遠隔計測や遠隔制御など都市型水産校として本校には明るい展望があります。

先輩諸氏のように、二十一世紀の世界で活躍する三谷水産高校生を一人でも多く育てよう、楽しく活力あふれる学校づくりのため、みなさん



二十三年間楽しい青春をありがとう 吉良高校養護教諭 田辺ふみ子

と一緒に三谷水産校を支援したいと思っています。長い間お世話になりました。ございました。

生徒とほとんど歳の違わな

い新米で学校始まって以来の女教師は、二三年間の三谷水産高校在職中に、男性職員と男子生徒の男社会の中で、いつも自分は女であることを忘れずに恋愛・結婚・妻・出産・母親・育児・離婚・再婚・転勤等と目まぐるしい人生を、結構生き生きと楽しんで過ごしてきたと思います。(三谷水で退職も考えたっけ)

二三年間という長期間、水産の保健室(畳やセメントの上の保健室もあつたっけ)で養護教諭をしながら先生方や生徒からまた学校そのものから、自分の人生に大きく影

響を受けたものが数限りなくあります。その内悪影響であつたと思われれることは、女である私が男思考で行動することが多かつたことです。女性ばかりの養護教諭の会議やおしゃべりの中で男性的な発想の私は、いつも彼女達から奇異な目で見られるか、発想の転換のすごい人と一歩置かれた見方をされるか、とても自分の意見は受け入れられないと自ら口をつぐむかでした。また、前のパートナーからは毎日男社会の中で生き生きと働く男思考の私を、手をさしのべたくなるようなかわいい女や妻ではなかつたようでした。私

としては男社会の中にとつぷり漬かつていても、いつも女としての意識は忘れたことはなかつたしより女らしい女の追求もしていたのですが、そして今も追求中ですが。

次に、水産在職中自分にとって得難い今もつてすごいと思う最大の影響は、人間の生物としての不思議と人間愛の素晴らしさを教えてくれた職場であつたことです。硬派の時代も軟派の時代も生徒のエネルギーが、このうえもなく私を人間好きにしてくれたことです。恵まれない環境で必死につつばって生きている生徒ほど愛しく好きでした。具体的に言うと、ひとりひとりの生徒の生き方や在り方と親子の関係から私が学びとつた人生の教訓がものすごく多いと言ふことです。人間の心の発達には身体の発達と同様に自然の道筋があり、それが子供の育ちの節目節目の発達課題

の育ちの節目節目の発達課題

として現れる。つまり子育ての結果が思春期（中学高校時代）に現れるということ。私の二人の子供の「子育てのヒント」はすべて生徒からでした。その子育てのヒントで成長し、大人になっている自分の子供に満足しています。まさに三谷水に長期在職できたからこそ悟れたもので感謝感謝です。そして今も自分の周りでスムーズに思春期を乗り越えないうで心を痛める生徒を理解することの教科書にもなっているのです。現任の吉良高校では、大好きな人間の素晴らしい「性と生」そしていつでも誰にでも襲ってくる

「心の問題」をテーマとして勤務しています。今在る自分と、自分を取り巻く人々、特に生徒達のために二つのテーマを一生追求して生きていくつもりです。もちろん人間として魅力ある自分を磨きながら、単に生きるのではなく善く生きて行きたいと思つて

回想

十八回 機関科卒

高橋 剛 規

く生きて行きたいと思つています。こんな楽しい人生の生き方を教えてくれた三谷水産高校への感謝の気持ちを口に出して言える自分を誇りに思っています。多くの私と関わった先生方、そして四〇〇人以上の卒業生たちに「素晴らしい人生をありがとう」と言いたいと思います。

思い出せば母校の門をくぐったのは三十三年前の春でした。当時は、週番制度があり教師生徒が校門で立番をして、通学する生徒の服装等のチェックをしたものです。勿論、拳手の敬礼、制服はチューニックでさながら海軍兵学校の様

でしたが、その中の一人は私です。校舎は木造で一部本館のみ鉄筋コンクリート造りであったと記憶しています。体育祭には、近隣の女学生、織物工場の女工さんが駆け付けこの時ばかりは男子校であることを忘れませんでした。「棒倒し」では海軍さながらに殴る蹴るは当たり前この時ばかりと上級生を蹴ったりしたものでした。（今だから言えますが）

に役立った事を感謝しています。この精神こそが「忍耐」の二文字を生んでいるのではないかと確信をしています。今日の子供達にはこの二文字は遠い過去になってしまった様な気がします。たしか、校訓には「質実剛健」の言葉があったと記憶していますが、この生き方、精神が人生においては必要と思

何んと言つても我が母校の大きな特色は、航海訓練があると言うことです。本科生は木造船「日吉丸」八十三トン専攻科生は当時の県水産課所属の鋼船「晴和丸」四百二十トンに乗船したのでした。初めての外洋へ船出した時の喜びと不安は今でも昨日の様に思い出します。やがて、専攻科終了後船会社へ就職し諸外国の港を訪問したのですが、社会の荒波の中でも本校で教え込まれた船乗り精神が大い

三谷水産在学中、おもしろかったことは。実習で、ガス溶接、アーク溶接、旋盤、等特殊な作業を行なったことです。実習当時は、あまり時間がなかつたので、満足出来る物は、作れなかつたですが、卒業記念に旋盤を使用し、製作した丸文鎮は、自分では良く出来た物で、いまだに愛用しています。

三十四回 機関科卒

名倉 庄 二

ています。さて、近年女子への門戸を開かれ少数なれど勉学に励んでいると聞いています「質実剛健」があてはまるか些か疑問でもあります。この様に校風も随分様変わりしてきたと思いますが、同窓生の一人として母校の益々の発展と同窓生、教職員のご健勝を祈りペンをおきます。

皆様のお蔭を持ちまして、同窓会会報「みおすじ」も第五号を発行することができました。卒業生の皆様の声を反映して、仕事や暮らしに役立つ情報をお届けしたいと努力していますので、ご寄稿を是非お寄せ下さい。

皆様の皆様のお蔭を持ちまして、同窓会会報「みおすじ」も第五号を発行することができました。卒業生の皆様の声を反映して、仕事や暮らしに役立つ情報をお届けしたいと努力していますので、ご寄稿を是非お寄せ下さい。

ご寄稿のお願い

皆様の皆様のお蔭を持ちまして、同窓会会報「みおすじ」も第五号を発行することができました。卒業生の皆様の声を反映して、仕事や暮らしに役立つ情報をお届けしたいと努力していますので、ご寄稿を是非お寄せ下さい。



魚と森

元機関科教諭 三浦一好

ギリシャの東、小アジアとバルカン半島に挟まれたところにエーゲ海という海があります。美しい海で日本の若い女性には人気のあるところですが、この海では魚が獲れないということ。なぜ獲れないかについて、日本政策研究センター所長の伊藤哲夫さんは、「両岸に木がないからです。岩肌の山から流れ出た水にはプランクトンが発生しない。従って魚も繁殖しない。日本の近海で魚が沢山獲れるのは森があるからです。一時、三陸海岸で魚が獲れなくなりました。調べてみたら森がなくなっただけだということ。森を管理する農家がなくなったからです。」と話しておられます。

日本人は森林と一緒に生活してきました。弥生時代に水田を作り、米の生産が始まりました。なぜ水田ができたかというと、適量の雨が降り、森林が雨を止めてくれるからです。森に雨が降ると六〇％は樹木で受け止められ、徐々に大地に吸収されます。そして、大地にしみ込み、地下水となります。樹木で覆われた山には落葉や枯れ木が腐蝕し、栄養分が高い土壌が表土となつています。その栄養分が高い土壌に汲みこんだ雨水が地下水となり、やがて地表に出て川となる。その川水を受けて水田ができる。その水田の水が川に戻り、海に流れる。この水は栄養分が高いので魚の餌になるプランクトンが発生します。それを食べて魚が繁殖するわけです。

田、海が一つのシステムになって繁栄してきました。水田がなくなることによって、このシステムが崩れます。森林は原始林ではなく、植林によって成り立っているのです。日本の山林が保たれているのは、農民が自分の水田のために植林をし、手を入れることによって保たれているのです。そして、その森林があるから沿岸漁業が成り立つ。こういう形で日本人の基本的な生活が営まれてきたのです。

今は休耕田が増えて、田は荒れています。昭和三十年代の高度成長期に、農村人口は都会に流出し、所謂三ちゃん農業に陥り、不振と低迷を続け、林業また廉価な外材の大量輸入により、国産材の売行不振のため山林業は見限られました。

元来わが国はアメリカ大陸のような大平原ではないのです。海と山の間にある狭い土地を耕して田を作つて来たのです。山すその急傾斜地にも几帳面に石を積んで田を耕し一坪にも満たない面積の田を何枚も何枚も作つて、お米を作つて来たわけです。これだけで生活のすべてが賄えるわけではありませんから、あとは山に入って植林をし、木の下草を刈り枝打ちして森林を守つて来たのです。したがって半農半林であり、一般に農林業と云われる所以です。



三谷水産での最高の思い出

豊丘高校 鈴木博

長い間農林省と呼ばれて来た役所が最近では農林水産省と看板を書き替えています。この際漁家も林業に目を向け、漁林兼業家の育成に努力してはどうか。米を作らない人に補助金を出すなどというのではなく水源を守るために補助金を出すようにしたらどうか。沿岸漁業を盛んにするためにぜひ考えてほしい施策だと思えます。漁師山に登るといふことでしょうか。

この春の人事異動により転勤し、五ヶ月が過ぎ、月日の経過の早いことに驚いているのですが、しかし、三谷水高での十二年間も「あつと」といふ間で過ぎさつたことにも同様に感じている今日です。

三谷水高での十二年間、私にとっていろいろな貴重な体験や教えを授けました。この内最高の体験は、愛知丸での沖縄沿岸航海実習の引率でした。蒲郡港出航の際には、伊良湖フェリーで船酔する自分に対し不安が一杯で何とも言えない気分でした。一日目は何とか船酔しない前に就寝することに心掛けたこと

三谷水産での最高の思い出

▽ 聖矢馬酒造孝幸「ハコノ」(専門高杉の総合文化券)・十一月十六日(土)・十七日(日)限(11限)・聖矢馬体育館(実演・展示・即売等)

水高ヨット部OB会ヨットレース

去る3月10日にOB会を三谷の魚六で23名が集まり開きました。その時「一度、みんなでヨットに乗ろう」、「乗るならレースをやろう」との声がありました。そして8月にレースの開催が決まりました。

8月25日に蒲郡市海陽ヨットハーバーでOBとその家族26名が参加してヨットレースを行った。レースはスナイプ級10艇を海陽ヨットハーバーよりチャーターして10時スタートで3レースして順位を競った。

30年ぶりとか、卒業以来始めてヨットに乗る人が大部分でしたが、そこはむかし取ったきねずか、弱風に助けられて何とか乗りこなしました。親睦レースなので和気あいあいうちに、無事1時30分終了した。優勝は小林貞介・市川日出夫組でした。

表彰式・親睦会は場所かえて3時より盛大に行い、来年も8月第四日曜日にレースの開催を決定し、次年レースでの再会を約束して6時に散会した。(16回漁卒 小林俊雄)



が唯一の記憶です。二日目の早朝、九州の宮崎港沖合に到着し、メインエンジンが停止した時に目が覚め、ベッドからおり、艦の甲板に出て、宮崎港の灯を見た時、自分が船酔していないことに対して、心の内で「ヤッター」と大声を出したことが思い出されま

す。それ以後はこのことが自信になり、船の揺れも「ゆりかご」のようであつたりと眠ることが出来ました。この様に楽しい思い出が来ましたのは、皆様方のおかげと感謝しております。この文面を拝借して、御礼申し上げます。

カッター部

「海の日」制定記念 関東・東海地区水産高等学校

カッターレース大会(第9回大会) 3位

入部しても長続きしない生徒や気力の無い生徒が多くなり、部員の確保、練習量の確保等思うようにならないが、現在、女子部員2名も頑張っており、来年度以降に向けて立て直しを図ってゆこうというところです。

「海の日」制定記念 関東・東海水産高等学校カッターレース大会

七月二十日、「海の日」制定記念日の朝、台風十一号接近のため風雨強いなか、蒲郡市民会館前の蒲郡港において北から青森県の八戸水産高校など、八校が参加、関東、東海水産高等学校カッターレース大会が行われた。

開会式のグラウンドは雨に降られて泥んこ状態、海上は、白波がたつ、雨は横から降りつける、中止か開催か、トップの苦悩が手に取るようになる。

予定通り開催と決まり、雨と風が激しい中、会場設営も困難を極めたが、整然と会場

海に沿って長い遊歩道があり、ここでのカッターレースの見物、応援には最適で、このようなレース大会には最高の港である。まさに、「マリン都市蒲郡」だ。レースは雨降りしきるなかカッターは出てゆき、旗の合図でスタート、力強いオール裁きで熱戦が繰り広げられた。中でも女子生徒が試合に参加したのは東京都立大島南高校と三谷水産で、都立大島南高校は艇長として乗艇していた。一方、三谷水産は女子二名が艇員として、競技に参加した。競技の途中でオールが乱れてしまうのではないかと、真実のところ、よそから見る者は、心配をしていたがその心配は取りこし苦労に終わった。何となれば、オールは一糸乱れず揃い、しぶきもたえずに海の中に沈み、白い渦巻きを持ってかき揚げていた。よくここまで、訓練したものだ。三試合のうち二試合は女子部員が乗艇、常に相手にき

子定通り開催と決まり、雨と風が激しい中、会場設営も困難を極めたが、整然と会場

蒲郡市民会館前の蒲郡港は

そり勝という健闘ぶりを発揮していた。その健闘の結果、三谷水産は三位に入賞しました。時化っていた海上も台風がとうざかるにしたがい、風もおさまり天候も回復、午後からはレースにふさわしい天候となり、優勝戦は静岡県立焼津水産と新潟県立海洋高校とのあいだで行われ、焼津水産高校が優勝した。焼津水産の乗ったカッターは優勝にふさわしい、縦横てをして優勝の喜びをあらわしていた。優勝戦は甲子園の高校選抜野球でみる場面と同じく、勝つても負けても涙を流していた。やはり高校生だなと、つい見ている方も目頭が熱くなる。

今回のカッターレース大会は、午前中は、時化っていて、傘と傘の間から、また合羽を来て声援を送り、午後からは、天気はよくなり、両手を使いメガホンで応援するなど、変化の激しい天候であり、これに耐えうるよいカッターレースであった。

- 準決勝戦 ●決勝戦
- 1 新潟海洋高校 静岡焼津水産
- 青森八戸水産 新潟海洋高校
- 2 静岡焼津水産 愛知三谷水産

●平成8年度
春季東三河
高校野球一次リーグ戦

- 3/26豊 丘×三谷水 8/7
- 3/27小 坂井×三谷水 3/2
- 3/28三谷水×蒲 郡 8/7
- 3/31豊橋南×三谷水 6/5

●第78回
全国高校野球
選手権愛知大会

- 7/21豊田大谷×三谷水 4/1

●平成8年度
秋季東三河高校
野球一次リーグ戦

- 8/16新城 東×三谷水 7/0
- 8/17三谷水×蒲 郡 11/2
- 8/18豊 川×三谷水 7/0
- 8/20成 章×三谷水 7/0

以上が、本年度の野球部公式試合の結果である。ストリーグ中の地道なトレーニングを終え挑んだ春季リーグ戦は、全試合一点差ゲームという接戦の末、一勝三負という結果に終わった。結局、精神的な弱さを露呈する形になってしまい、波に乗れなかった

が、確実に実力と自信をつけた者もいた。

六月二十九日名古屋市教育局センターで行われた抽選会で、主将、森長の顔が一瞬険しくなった。科技豊田高校と豊田大谷高校の勝者との対戦が決まったからだ。豊田大谷は今の春の県大会優勝校であり甲子園出場の有力校として名乗りをあげていた。

その日の夕方、連絡網で部員へ対戦相手及び試合日程を連絡する。残念なことに私は、戦う前に戦意を失いかけた。もはや、名前負けをしてしまった部員を数人見かけてしまった。ただし森長を中心に三年生部員は最後の大会に向け密かに闘志を燃やし続けていた。何とかせねばと思ひ、七月十四日科技豊田×豊田大谷の試合へ部員全員を連れて行くことに決めた。豊田大谷の野球に圧倒され、かえって見たことが裏目に出ることも懸念されたが、幸いにも科技豊田の善戦でかろうじて豊田大谷が

勝利するという試合を目の当たりにした。数人の部員からは「たいしたことないな」という強気な言葉さえでてきた。翌日の練習は打倒大谷に燃える部員たちの声が大谷に燃えぱいに広がった。主戦投手、柴田を故障で欠いたのは痛かったが、左腕、田辺の躍進と捕手、岩見の好リードで春の覇

者と堂々と渡り合う好ゲームをする事ができた。

新チームは再び部員不足との戦いで、一人最低二ポジション体制で練習に入った。十人で公式試合を戦い抜くとは、一勝三負という結果に終わり、課題は山積み状態であるが、一から出直すつもりで日々、練習に取り組んでいくつもりである。

同窓会地区役員

大塚	杉浦義文 21増 ☎59-8010	来本克己 32漁 ☎59-7046	小林貞介 43通 ☎59-7279	
三谷	竹内四男次 25増 ☎68-4250	小林俊雄 39漁 ☎69-1617	小田洗次 40漁 ☎68-3638	小田利房 52製 ☎68-3836
蒲郡	鎌田篤司 42漁 ☎67-5018	林哲司 43増 ☎68-3339	大場春市 44製 ☎68-3732	田中靖稔 61漁 ☎67-4399
形原西	天野忠則 39樓 ☎57-5438	壁谷福造 41漁 ☎57-7721	早川勇人 47樓 ☎57-8554	本田文男 42通 ☎57-4012
西幡尾豆	棚木則夫 45樓 ☎35-1541			
一色	水野勝治 28増 ☎72-8128	酒井勝利 31漁 ☎72-7041	天野博孝 42増 ☎72-7035	
豊川宮	平井忠男 31漁 ☎5-5043	小野高明 43漁 ☎5-1595	能勢芳康 45樓 ☎9-0524	菅沼昭人 61通 ☎6-9196
新城	権田重紘 34漁 ☎2-0580	沢田保美 41樓 ☎3-3147		
豊橋	金子勝男 36製 ☎32-2568	角堀修平 42通 ☎31-4202	安藤正道 43製 ☎46-5962	
岡崎	安藤建男 36製 ☎47-2508	金子和正 42増 ☎51-7719	浅井功 44増 ☎51-8639	藤井徳久 49通 ☎45-7521
名古屋瀬	岡本茂樹 40製 ☎611-5301	西川弘茂 40樓 ☎891-7278		
渥美	渡邊親悟 43製 ☎2-5306			
御津	船坂清伸 40増 ☎5-4471			
小坂井	横田義人 36増 ☎2-4762	樫原誠 43通 ☎8-3658	山田耕一 45樓 ☎2-3015	

部活動「三谷水詩吟部発展あれ」



「星よ 集え輝け 北斗の地に」のテーマのもとに。第二十回全国高等学校総合文化祭、豊かな自然に恵まれた北海道へようこそ!!。文化庁長官、土田茂様のメッセージに迎えられ、八月七日、札幌空港に降り立った吟詠剣詩舞部門・愛知県代表の一員として大遠征。小樽市民会館大ホール・舞台の広さを確認し、扇を波打たせな

から練習に余念がない、明日は本舞台です。

全国高等学校総合文化祭、全国各県からの代表校が一堂に集まって各文化部門の発展、毎年開催地が移る大舞台・北は北海道から南は沖縄と。

本校の詩吟部の全国大会出場回数も計十回、しかも連続出場と参加出場回数を重ねることができました。

男子だけの部に女子生徒が入部し、芸の中身も荒っぽい吟詠から、しおらしい舞に刺激され、吟の中身も柔らかに表現できるようになった。

愛知、熊本、岡山、山梨、高松、埼玉、沖縄、愛媛、新潟、小樽、各地各県を訪れ交流を深め、団体行動、規律等々、校内では体得できない人間社会の秩序と日本古来から伝わる古典芸能の伝承と舞台数を重ねる毎に成長してゆく部員に眼を細めるところでもある。析発展・謝々!!智

職員異動

一 退職者

- (1) 教 頭 谷 誠剛先生
(2) 嘱託講師 原田 幸孝先生

二 転出者

- (1) 社 会 鈴木 博先生
(2) 数 学 伊藤 雅典先生
(3) 英 語 山本 義輝先生
根室西高校へ

三 転入者及び新任者

- (1) 教 頭 藤田 和徳先生
(2) 数 学 大須賀 泰先生
御津高校から
(3) 水 産 古田 雅士先生
新任
(4) 理 科 佐藤 望先生
常勤講師
(5) 英 語 遠藤 一則先生
臨時教諭



卒業生の進路状況

Table with columns for graduation status (進学者, 卒業生), gender (男女), and various career paths (漁業科, 水産製造科, etc.). Includes a 'その他' (Others) column for various activities.